



第92回
キネマ旬報ベスト・テン
文化映画 **第1位**

日本映画ペンクラブ賞
2018年
文化映画部門 **ベスト1**

第42回
山路ふみ子映画賞
文化賞

第24回
平和・協同ジャーナリスト基金賞
奨励賞

第33回
高崎映画祭
ホリゾント賞

「もう、忘れていいよ。
わたしがここで、覚えてるから」



『標的の村』標的の島風かたか
三上智恵

『テロリストは僕だった』
大矢英代

沖縄 スパイ 戦史

6/28 (金)
— **7/3** (水)
アンコール！
上映決定！

監督：三上智恵、大矢英代
プロデューサー：橋本佳子、木下繁貴
撮影：平田 守 編集：鈴木啓太 監督補：比嘉真人 音楽：勝井祐二
協力：琉球新報社、沖縄タイムス社
製作協力：沖縄記録映画製作を応援する会
製作：DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵、大矢英代
配給：東風
2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

ふたりのジャーナリストが迫った沖縄戦の最も深い闇。
少年ゲリラ兵、戦争マラリア、スパイ虐殺……
そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」とは？

www.spy-senshi.com





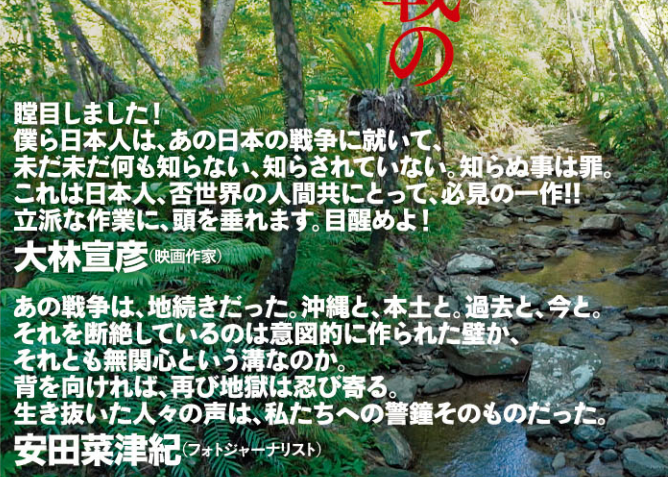
戦後70年以上語られなかった 陸軍中野学校の「秘密戦」、 明らかにするのは過去の沖縄戦の 全貌だけではない。

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む20万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が自決する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

1944年の晩夏、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らからもたらした惨劇とは……。



「散れ」と囁くソメイヨシノ
「生きる」と叫ぶカンヒザクラ



隠目しました！
僕ら日本人は、あの日本の戦争に就いて、
未だ未だ何も知らない、知らされていない、知らぬ事は罪。
これは日本人、否世界の人間共にとって、必見の一作!!
立派な作業に、頭を垂れます。目醒めよ！

大林宣彦 (映画作家)

あの戦争は、地続きだった。沖縄と、本土と。過去と、今と。
それを断絶しているのは意図的に作られた壁が、
それとも無関心という薄なのか。
背を向ければ、再び地獄は忍び寄る。
生き抜いた人々の声は、私たちへの警鐘そのものだった。

安田菜津紀 (フォトジャーナリスト)

長期かつ緻密な取材で本作を作り上げたのは、二人のジャーナリスト。映画「標的の村」「戦場ぬ止み」「標的の島風かたかた」で現代の闘いを描き続ける三上智恵と、学生時代から八重山諸島の戦争被害の取材を続けてきた若き俊英・大矢英代。
少年ゲリラ兵、革命による強制移住とマリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかにするのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。
映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。



@spysenshi fb.com/spy.senshi www.spy-senshi.com

6/28(金) - 7/3(水)!

アンコール上映決定!

上映時間=11:00 | 13:30 | 16:00
★6/28(金) 全回 三上智恵監督による初日舞台挨拶あり
料金=1,200円(税込)均一

シネマハウス大塚

03(5972)4130 cinemahouseotsuka.com
整理券番号順・各回入替・定員制

アクセス 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨4-7-4-101

- JR「大塚駅北口」より正面方向の「OMOS」のわきを通り、都電の線路を超え、北大塚一丁目の交差点を左に、折戸通りを道なりに進む。都立文京高校正門の前(徒歩7分)
- 都電荒川線「巢鴨新田駅」より徒歩3分

